

事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き、財団森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1,452,195円(予算額 1,482,000円)

事業概要

調査 山形大学農学部 菊池俊一准教授

現地調査

日程 令和4年6月9日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

令和4年6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一步園自然セミナー開催事業

阿寒湖周辺の豊かな自然環境の象徴である国の特別天然記念物「マリモ」は、地象的、気象的な環境特性の相互作用によって球状の塊に発達するという他の生物では極めて稀な性質であり、阿寒湖のマリモは、現在では世界で唯一の大型マリモの群生地とされ、保全と調査研究が続けられている。本セミナーではマリモ生息の重要な環境要因の一つである阿寒湖を取り巻く森林から供される水（河川）に注目しつつ、マリモに関する科学的な新たな知見などにも着眼し実施した。

また、一步園自然セミナー「アイヌ文化編」については、企画立案の際、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されていた時期であったことから中止とした。

事業費

76,656円（予算額 130,000円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費

1,000,000円（予算額 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路義務教育学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同

校前期課程2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に教科教育と連動した自然体験プログラム（延べ12回、参加者330名）を実施した。

事業費 137,875円（予算額 144,000円）

2) 特別支援事業

阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社からの寄付金を活用し、財団管理森林内での次世代の自然環境を担う人材育成に寄与するための自然環境教育に関する主体的な活動に助成金として支援した。

事業費 190,000円（予算額 200,000円）

支援先

・北海道教育大学附属釧路義務教育学校 190,000円

支援事業名

阿寒湖畔自然体験学習（6学年に係る釧路市⇄阿寒湖畔までの貸切バス代として）

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、刊行等の事業に対して助成を行った。

事業費 1,923,324円（予算額 3,374,000円）

事業概要

○ 令和4年度助成採択者

① 齋藤 央（札幌市）

助成内容：別海町別海地区の主要な湿原の調査および保全対象化 助成額：500千円

② 森づくりの仲間たち協議会（札幌市）

助成内容： どり亀さん・ニコルさん追悼事業 助成額： 6 0 0 千円

③ 石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会（石狩市）

助成内容： ハマナスの持続可能な利用による親子参加型環境保全啓発活動 助成額： 4 3 0 千円

④ すみかわいきもの調査隊（札幌市）

助成内容： すみかわいきもの調査隊 助成額： 1 4 0 千円

※ 助成総額 1, 6 7 0 千円

○ 審査経過

令和4年1月11日 募集広報

令和4年4月18日 審査委員会（書類選考）開催（応募件数：道内の団体・個人より計13件）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・当財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

櫻井 洋一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部自然環境局自然環境課長）

3）森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より取り組みを開始した。

（ア）「教育の森」では、学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を

活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き実施した。

○ 指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林の「光の森」をメインフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生に対し、学校教育に係る教材開発、活用を見据えた自然観察・体験活動の場を提供した。

実施日並びに参加者

令和4年7月1日～3日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等21名

令和4年11月8日～9日（日帰り）北海道教育大学釧路校 大学生等8名

令和5年2月13日～15日（2泊3日）北海道教育大学釧路校 大学生等13名

(イ) 「レクリエーション・健康の森」では、当財団が認定した「一步園森の案内人」が実施する管理森林内のガイドツアーによる今年度の入林者数は1,313名（日本人1,256名 外国人61名）で、昨年度の入林者数923名（日本人916名 外国人7名）と比較して、日本人を中心として入林者数は回復傾向にはあるが、依然、新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限措置等もあり、外国人の入林者は回復していない。しかし、一方では、自然志向への回帰から「一步園森の案内人」による森林散策等への関心が高まりを見せている。

財団森林を活用したアイヌ文化のガイドツアーを検討している阿寒湖アイヌコタンからの要請もあったことから、「一步園森の案内人」の養成事業を昨年度に引き続き実施した。

○令和4年度「一步園森の案内人」による入林者数（令和4年4月～令和5年3月）

入林者数 1,313名（日本人1,256名 外国人61名）

外国人の国籍別内訳

中国 2 名 台湾 6 名 タイ 2 名 その他のアジア 5 名

アメリカ 19 人 ヨーロッパ 17 人 その他 10 名

○「一步園森の案内人」（ガイド）の養成

3 名（アイヌコタン 3 名）

（ウ）「研究の森」では、東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき、財団管理森林内において、天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（学部 4 年次、修士 1 年次）」に対する支援を行った。

○ 研究支援

卒業論文 2 件、修士論文 1 件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援などを実施した。

卒業論文

- ・「阿寒湖周辺におけるエゾシカ嗜好性樹木の立木被害調査」
- ・「阿寒湖周辺におけるエゾシカ嗜好性樹木の分布調査」

修士論文

- ・「阿寒湖周辺の餌場における野生エゾシカの利用状況の調査」
- ・「林道沿線のエゾシカ食害調査及び対策資材に関する調査」

○ 実習支援

生態系保全学研究室所属学生に対し、財団管理森林の案内および解説を実施した。

実施日並びに参加者

令和 4 年 7 月 14 日 東京農業大学生物産業学部生（3 年次 19 名）

事業費

659,264円（予算額 892,000円）

（４）顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。また、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞を贈呈した。

事業費

1,934,305円（予算額 2,408,000円）

事業概要

○ 前田一步園賞顕彰者

- ・あさひかわサケの会（旭川市） 旭川市教育委員会推薦

業績： 自然保護団体「大雪と石狩の自然を守る会」を母体として河川環境の改善によるサケ資源の回復を専門的に担うために結成された同団体は、河川管理者・研究者・市民と協働しながら、サケが遡上できる河川環境は、豊かな流域生態系や生物多様性に寄与することをより多くの市民に伝えるため、サケ資源回復（稚魚放流等）に取り組む傍ら、サケ及び河川環境調査、サケに関する学習、植樹及び森林整備活動などの普及啓発活動、調査研究にも尽力。

- ・UWクリーンレイク洞爺湖（洞爺湖町） 北海道胆振総合振興局推薦

業績： 洞爺湖に棲息するウチダザリガニの繁殖を抑制するため、行政、大学、民間団体と協働して捕獲調査活動（令和3年度捕獲 78,000 尾／累計では約 73 万尾）に取り組む傍ら、大学などと連携

し生物多様の保全に関わるシンポジウムの開催やビジターセンター等が実施する防除体験観察会にも協力するなど普及啓発活動にも尽力。これらの取組は先進事例として道内各地で実施されているウチダザリガニの駆除活動団体の模範となり高く評価されている。

○ 一步園ジュニア自然環境賞顕彰者

・札幌市立駒岡小学校こまおか緑の少年団（札幌市） 北海道石狩振興局推薦

業績： 児童たちが気軽に野生動植物に親しめる学校林を舞台として、小学校生活 6 年間で自然から学びとるための教科と連動した自然体験プログラムを実践。とりわけ、社会科の学習で森を守ることを学んだ児童たちが、自ら伐採した木々からうまれた薪を学校行事のエネルギーとして活用するなどの持続可能なエネルギー循環教育活動も展開。また、保護者・OB・地域の企業のボランティアと共に学校林の整備にも取組む。

○ 審査経過

令和 4 年 5 月 1 6 日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和 4 年 9 月 7 日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞 5 件、一步園ジュニア自然環境賞 1 件）

令和 4 年 1 2 月 9 日 表彰式（ホテルポールスター札幌／札幌市）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・当財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人北海道環境財団専務理事）

番匠 克二 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部自然環境局自然環境課長）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

これまで、阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行っていたが、令和４年度は助成要望が無かったため助成を行わなかった。

事業費（助成） 〇円（予算額 ３００，０００円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） ８００，０００円（予算額 ８００，０００円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 ３４５，０００円（予算額 ５６０，０００円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、令和4年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,956,000円（予算額 2,000,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

(ア) 「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施し森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの被害状況や生息状況について、独自に、また大学や研究機関と連携して調査を実施した。

囲いワナによる捕獲事業実施にあたって、囲いワナは計5基（小型1、大型4）運用した。なお、運用した5基の内3基（小型1、大型2）は令和4年度冬季に設置した。

令和4年度の森林被害防止対策において、囲いワナの設置（大型2基）に関しては、補助金（令和4年度エゾシカ森

林被害防止強化対策事業)の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和5年1月31日～3月28日に捕獲したエゾシカ157頭中、補助対象の成獣153頭については、令和4年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金(1頭あたり6,000円)を受領した。

(イ) 令和2年11月に設置された「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会」(事務局：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所)に構成員として参加した。

加えて、環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所がエゾシカにGPS首輪を付けエゾシカの季節移動などの情報を収集することを目的とした事業を実施するにあたり、管理森林内の囲いワナで捕獲したエゾシカ(2頭)を提供した。

事業費 17,965,773円(予算額 18,520,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

事業概要

①給餌事業

給餌場、ワナ内の給餌

- ・春季：令和4年4月1日から令和4年4月15日まで、13箇所、130個給餌
- ・冬期：令和4年12月13日から令和5年3月28日まで、17箇所、1,378個給餌

給餌合計 1,508個(ビートパルプ 1個60kg、給餌総量90,480kg)

② 囲いワナによる捕獲事業

- ・春季：令和4年4月5日から令和4年4月15日まで、ワナ数：3基、捕獲：31頭(7回)
- ・冬期：令和5年1月31日から令和5年3月28日まで、ワナ数：5基、捕獲：157頭(21回)

捕獲頭数合計 188頭

捕獲回数合計 28回

③ 囲いワナ撤去事業（春季）

令和3年度に設置した囲いワナの撤去（小型1基）

④ 囲いワナ設置事業（冬期）

囲いワナの設置（小型1基、大型2基）

⑤ 調査事業

- ・ 餌場周辺樹皮食害状況調査（4～5月、1～3月）（直営実施）
- ・ 森林内出没状況踏査（5～12月）（直営実施）
- ・ 森林内簡易チェックシート調査（5～6月）（直営実施）
- ・ 森林内樹皮食害、角こすり状況調査（5～6月）（直営実施）
- ・ 囲い区を用いた幼稚樹影響度調査（9月）（研究機関と直営で実施）
- ・ 餌場における出没状況調査（1～3月）（大学と直営で実施）

3）林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、および排水管などの関連設備の補修・設置を実施した。

事業費

2,474,000円（予算額 2,000,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

4）調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を令和4年度施業実施区域である3108・3109林班の天然生林にて実施した。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。

事業費

885,237円（予算額 1,200,000円）

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理（伐採・移動等）を実施した。

事業費

281,000円（予算額 500,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

（2）人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を実施した。

事業費

296,000円（予算額 410,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林8.26haの間伐、および伐採木（88m³）の搬出を実施した。

事業費

1,851,400円（予算額 1,580,000円）

作業実施林小班 間伐 : 3079-7、3080-18

（請負先：（有）前田一步園林業）

3) 人工造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成29年度に植栽した人工造林地の4.70haの下刈を実施した。

事業費

326,000円（予算額 300,000円）

作業実施林小班 3084-12

(請負先：(有)前田一步園林業)

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、7 ha の天然生林の樹下にエゾマツ・トドマツの苗木(4, 200本)を植栽した。また令和5年度植栽予定地8 ha の地拵えを実施した。

事業費 3, 911, 000円(予算額 3, 710, 000円)

作業実施林小班 植栽：3119-7

地拵：3119-10

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成30年～令和3年の植栽地35. 85 ha の下刈を実施した。

事業費 2, 489, 000円(予算額 2, 280, 000円)

作業実施林小班 3074-12、3075-6、3089-2、3090-1、3118-6、3119-8

(請負先：(有)前田一步園林業)

3) 天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、34. 66 ha の間伐、7. 53 ha の更新伐、および伐採木(699 m³)の搬出を実施した。なお、間伐計画量は48. 66 ha であったが、事業進捗に遅れが生じたため令和4年度実施予定であった14. 00 ha の間伐については令和5年度に実施する。

事業費 10, 482, 600円(予算額 14, 730, 000円)

作業実施林小班 間伐 : 3108-1、3109-1、3109-5、3110-5

更新伐 : 3119-3

(請負先 : (有)前田一步園林業、釧高運輸(株))

(4) 北海道電力ネットワーク(株)送電設備更改工事関連事業

令和4年5月北海道電力ネットワーク(株)が送電設備更改工事を開始した。同工事に伴い、送電線用地の拡幅が必要となり、財団管理森林内において支障木(10, 398本、北海道電力ネットワーク(株)調査)が発生する見込みであったが、関係省庁への許可申請の手続きが取られていなかったため、工事は一部が実施された後中断となり、残りの工事は令和5年度実施へと計画が変更された。

令和4年度は、一部工事実施個所において生じた伐採木(423m³)の販売に係る搬出を実施した。

事業費 1, 220, 900円(予算額 1, 330, 000円)

(請負先 : (有)前田一步園林業)

(5) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。また、「針葉樹一斉林保存林化」に関する調査計画立案のため有識者との打ち合わせを実施した。加えて、森林内に不法投棄された廃棄物の処理を実施した。

事業費 1, 015, 829円(予算額 2, 030, 000円)

(6) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は１７件、人数は２２１名であった。

おもな視察受け入れ内容

令和４年	４月	８日	１日	エゾシカ対策（北海道水産林務部林務局森林整備課）	（３名）
令和４年	５月	２６日	１日	森 林 視 察（釧路税務署）	（３名）
令和４年	５月	３０日	１日	森 林 視 察（一般社団法人パイングレース）	（４名）
令和４年	６月	２０日	１日	エゾシカ対策（株式会社平取町アイヌ文化振興公社）	（１０名）
令和４年	８月	１９日	１日	森 林 視 察（札幌大学）	（１０名）
令和４年	８月	３１日	１日	森 林 視 察（北海学園大学）	（１４名）
令和４年	９月	１３日	１日	森 林 視 察（経済産業省貿易経済協力局投資促進課）	（１名）
令和４年	１０月	５日	１日	エゾシカ対策（釧路市林活議員連盟）	（１０名）
令和４年	１０月	７日	１日	森 林 視 察（釧路市立マリモ幼稚園）	（１６名）
令和４年	１０月	２８日	１日	森 林 視 察（北海道立北見北斗高校）	（４３名）
令和４年	１１月	１６日	１日	森 林 視 察（北海道立北の森づくり専門学院）	（２２名）
令和４年	１１月	１８日	１日	森 林 視 察（北海道立北の森づくり専門学院）	（２３名）
令和４年	１１月	１９日	１日	森 林 視 察（株式会社シグロ）	（３名）
令和４年	１２月	５日	１日	森 林 視 察（一般財団法人 自然環境研究センター）	（１３名）
令和５年	２月	６日	１日	森 林 視 察（株式会社シグロ）	（２名）
令和５年	２月	２２日	１日	エゾシカ対策（北海道立北の森づくり専門学院）	（４０名）
令和５年	２月	２８日	１日	エゾシカ対策（酪農学園大学）	（４名）

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、車両の進入を防止するためのプランターやベンチなどの設置を行なった。

また、市街地の財団管理地内において、桜の木植栽と張芝工事等の緑化事業に加え、阿寒岳神社敷地の危険木処理を実施した。

事業費 1, 3 6 4, 5 8 9 円（予算額 1, 4 2 5, 0 0 0 円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表 3－1 のとおり土地の貸付を行った。

（表 3－1）土 地 貸 付 等 状 況 一 覧

契約区分	令和 4 年 2 月 現 在		令和 5 年 1 月 現 在		備 考
	契約件数	貸 付 等 面 積	契約件数	貸 付 等 面 積	
有償契約	202 件	520,102 m ²	202 件	520,102 m ²	電力会社送電線敷地 41ha を含む。
無償契約	20 件	356,991 m ²	20 件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	222 件	877,093 m ²	222 件	877,093 m ²	

4. 温泉事業

財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行った。

(1) 温泉供給施設の整備

温泉ヘッダー（分配設備）整備事業

正次6号源泉の温泉ヘッダー（分配設備）を更新し、格納施設を整備することによって、管理とメンテナンス性の向上を図り、温泉の安定供給確保に努めた。

事業費

6,360,000円（予算額 6,400,000円）

(2) インバーター制御盤移設事業

ケーシング管の破損を原因とする温度低下により、現在、未利用中であるチップ川源泉のインバーター制御盤を、正次7号源泉の旧型インバーター制御盤と交換することにより、設備の充実を図った。

併せて、正次7号源泉のインバーター格納施設が老朽化していることから、源泉管理の向上を図るため、同じくチップ川源泉の格納庫を移設し対応した。

事業費

612,000円（予算額 900,000円）

(3) 源泉警報装置更新事業

停電や設備の異常をリアルタイムに把握するため、全ての源泉に設置している警報装置は、現在、ドコモ3G回線で運用

しているが、この3G回線は2026年までに廃止される予定であることから、安定供給における管理体制の継続を目的に、2024年度までの3年間で計画的にシステムの更新を推進する。

今年度は3源泉のシステムを更新した。

事業費

2,000,000円（予算額 2,000,000円）

（4）源泉及び温泉供給設備の管理

令和5年1月現在の財団所有源泉数は昨年度から増減なく15本（揚湯中11本、休止2本、観測井2本）である。昨年度に引き続き、令和5年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努める。

（5）温泉供給

昨年度に引き続き、表4-1のとおり温泉供給を行った。

（表4-1）温泉供給状況一覧

供給区分	令和4年3月現在		令和5年1月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	62件	291本	62件	291本	
無償供給	3件	4本	3件	4本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3本		3本	暖房等財団諸施設
計	65件	298本	65件	298本	

5. その他

(1) ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託した。

事業費

216,000円（予算額 216,000円）